

ま
ち
の
保
育
園

こ
ど
も
園

MACHI-NO-HOIKUEN KODOMOEN COMMUNITY SCHOOL

こたけむかいはら

ろっぼんぎ

きちじょうじ

よよぎうえはら

よよぎこうえん

みなみあおやま

まちの保育園・こども園の「わけない豊かさ」

まちの保育園・こども園は、
子どもを真ん中にした、「まち」のコミュニティです。
子どもたちを囲むように、家庭と、保育者がいます。
地域で暮らし、はたらく人たちがいます。
想いでつながっていく、社会・世界の人たちもいます。
子どもも、大人も、ここで、共に育ち、学び、共に生活しています。

私たちの信念は、違いを大事にしながら、「わけない」こと。

一人ひとり。市民として、子どもも、大人も。
あらゆる知識。あたま・こころ・からだ。
教えるひと、学ぶひと。地域・社会と、園・学校。
ひと・いきもの・しぜん・ちきゅう。
こちらとあちら。世界。

この「わけない豊かさ」は、日々子どもたちが、私たちに届けてくれたりします。

まちの保育園・こども園は、
そんな、子どもと大人、「まち」のための、コミュニティの場であることを目指しています。

【一市民としての子どもの尊重】

子どもが一市民として歓迎され、
その権利を尊重され、
また、現在を最もよく生き、
より良い未来を作り出す力の
基礎を培う。

【子ども時代の“いま”を豊かにする家庭との連携】

子ども時代は「準備期」ではなく、
人間性の土台を築くため、それ自体が
意味を持つ人生最初の段階であり、
それを豊かなものとするために、
保育者・保護者が
連携する。

《保育理念》

一人ひとりの存在
そのものを喜び
互いに育みあう
コミュニティを創造する

【子どもも地域も生きる コミュニティの創造】

子どもは社会・文化の中で育つ。
地域の資源や文化を子どもの社会参加に
いかし、充実・発展させる。
保育園・認定こども園を拠点として
地域のつながりを強め、
地域全体の福祉や家庭支援につなげる。

わたしたちが 保育のなかで 大切にしている 7つの視点

1

小グループ活動

子ども一人ひとりが、自ら活動を選び、主体的に活動に取り組むための小グループでの活動。学びを丁寧に支え、探究を深めていきます。「ここが動いたときに最もよく学ぶ」その場面をいかにつくれるか。お互いの学びの状況を確認し合える小グループ活動は学びの効果が高いとされています。子どもたちは相互に関わり合い、考え方や学び方をインプットしていきます。



2

時間の考え方

日々の活動が
いかに豊かな育ち・学びにつながるかに重きが置かれ、
子どもの時間を大切にしています。
子どもたちがじっくり探究する(遊びこむ)ための時間
子どもたち同士が耳を傾け合う時間
ときにはゆったり過ごす時間も保証しています。



3

パートナーとしての保育者

保育者にとって一番大切なのは、
子どもとの愛着関係・信頼関係です。
その上で、子どもの学ぶ力・育つ力が発揮されるよう、
子どもたちが思考したり、探究したり、
自ら建設的な取り組みを展開する
パートナーとして存在しています。



4

保護者との対話

子どもの育ち・学びのプロセスを記録する
「ドキュメンテーション」を通して、
子どもたちの姿を共有しています。
子どもの理解を共に深め、
育ちと学びの連携を取るために
「対話」を大切にしています。



5

環境は第三の教師

第一は保育者、第二は子どもたち同士、
そして第三の教師は環境です。
安心できる居心地の良い雰囲気と、
育ちを支える保育室。
創造力を育み、遊びこむアトリエ、コミュニティに開かれた場。
子どもたちの「出会い」と創造の機会を
豊かに作りだしていきます。



6

プロセス主義である

子どもは可能性において豊かで、有能な学び手です。
自ら学び、興味や関心に基づいて、仮説を持ち、
それを共同作業の中で、検証したり、
仮説自体を豊かにしていくことができます。
人は、自分は価値がある存在と認められるとき、
力を発揮できると信じています。
私たちの保育の中心には「ドキュメンテーション」があり、
子どもたちの活動の価値を可視化し、
子ども理解を深めてくれます。



7

子どもは文化の中で育つ

子どもは、大好きなひとが、大好きなことを、大好きになります。
大人の私たち自身も楽しみ、子どもとも楽しみを共有すること。
ワクワクすることを、家庭や地域とともに実践する。
その中で、子どもの社会参加のレパトリーを
豊かにしていきたいと考えています。
子どもの理想的な環境づくりは、
理想的な社会づくりと同義であると思うのです。



まちにひらき、コミュニティを育む



私たちの園には、各園の入り口に、コミュニティに開かれ、交流を支える場があります。これらの場合は、園内外のコミュニティをつなぐ、中間領域として機能しています。ここでの出会いが、子どもたちに豊かな学びの機会をもたらしてくれることが多々あります。また、まちづくりにおいては、若い世代の参加に課題を抱える地域が少なくないなか、園・学校の特性は、保護者を中心とした、地域の若い世代をつなぐことにあります。これからの社会で、園・学校が、まちづくりの中核となって、地域にできることに、私たちは大きな可能性を感じています。

- 1「まちのパーラー」(小竹向原園・隣接)
- 2「CCLC(The Children and Community Learning Center)」(代々木公園・エントランス)
- 3「まちの本のサンドイッチ」(六本木分園・軒下)

コミュニティコーディネーター

各園に「コミュニティコーディネーター」(通称CC)という専任職員を置いています。子どもの興味・関心に寄り添いながら、地域と子ども・保護者・保育者の橋渡しする役割です。地域との共存関係を築きながら、子どもを真ん中に、子どもたちに様々な人格・才能との出会いや経験を持ってもらえるよう、保育者と連携を取って環境を整えて行きます。取り組みは正しさよりも、おもしろさで。まずはやってみるといふ心を持って。なにより、自分がわくわくすることがよき橋渡しになると考えています。



アトリエ

粘土や絵の具、ハサミ、筆、紙、自然物、デジタルツール…。様々な素材や道具を揃え、子どもたちが興味を持ったものについて自ら探究・探索し、創造活動を広げていききっかけをつくります。学ぶことは、創造することと同義語であり、常に「関係性」(もの、人、場との関係性)の中にあるという信念を持っています。アトリエは園全体のアイデンティティ形成の場であり、また子どもたちの表現・挑戦の場でもあります。何より、人の心を動かし、たのしく、愛があり、常に人を惹きつける存在であることが、理想だと思っております。

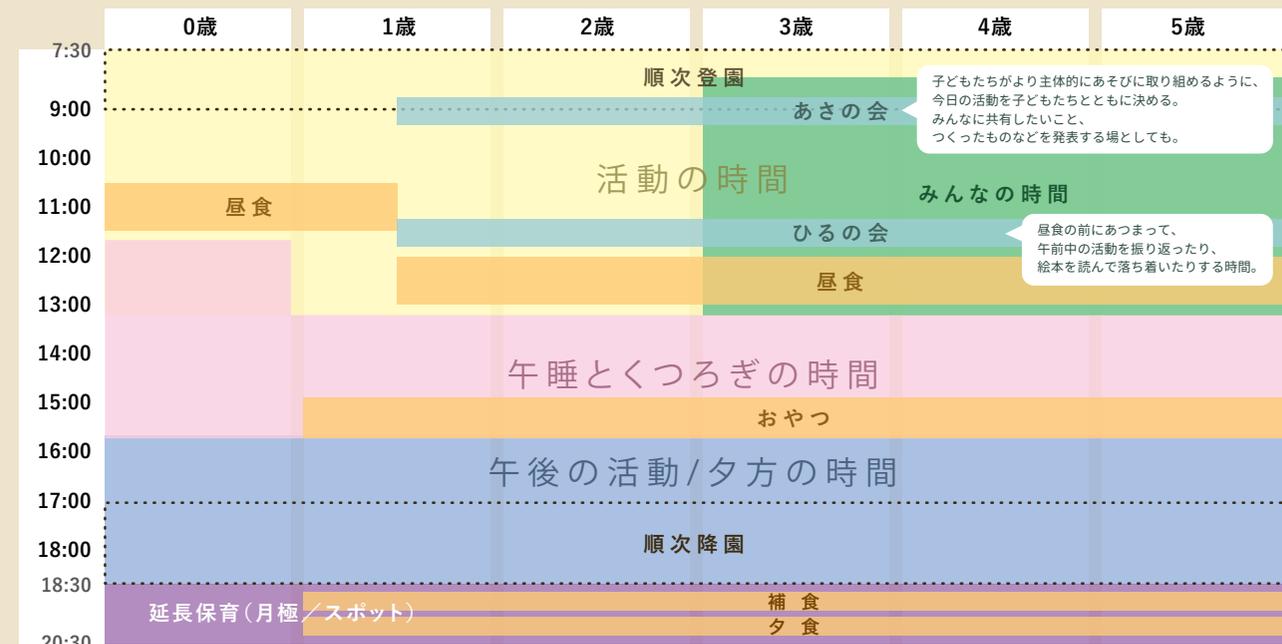


●アトリエリスタ / ペダゴジカルパートナー

子どもの創造活動と創造的環境を支える「アトリエリスタ」、保育・教育の伴走者であり、子どもたちの探究活動を支える「ペダゴジカルパートナー」が多様な視点で園全体をサポートしています。

園での1日 (一例・認定こども園の短・中時間を除く)

ひとりひとりのペースや興味関心をベースに、保育が組み立てられています。時間割はなく、子どもたちが好きなことをじっくりと探究できる環境・穏やかな時間を保障しています。異年齢でいっしょに活動をする機会もたくさんあります。



※時間はおおよその目安。0歳児は一人ひとりの生活リズムを大切にしています。

●食のこと

献立は園の栄養士が栄養バランスを考えて献立作成を行っています。旬、彩り、季節感を大事に、また日本の伝統行事に合わせた行事食も大切に考えています。食材は、できるかぎり地域のお店から仕入れています。各園、キッチンなるべくオープンにしたり、野菜の収穫、



食材の皮むきなど、子どもたちが日常的に食材に触れ、作る人のこと、食への興味関心が広がる工夫も行なっています。



まちの保育園

こたけむかいほら



まちの保育園 小竹向原 認可保育所

エリア●閑静な住宅街かつ、大学も多く文化的なエリアでもあります。都心へのアクセスが良いにもかかわらず、緑が多く、穏やかな空気が流れています。

園舎●誰もが居心地よく過ごせるよう、園の内装は木と石とレンガなど時間と共に変化していく自然物を多用し、落ち着いた色づかいでできています。渡り廊下を挟んで2つの棟に分かれており、その中心にみんなが集う園庭があります。園の入り口にあるカフェ「まちのパーラー」では保護者の方が朝の送りのついでに立ち寄り、職場にパンをテイクアウトする姿も見られます。パーラーの存在があることで、地域にも知っていただけたり、ここをきっかけに地域の方が保育に関わってくださったり、まちとの接点になっています。



📍 176-0004 東京都練馬区小竹町2-40-5 (小竹向原駅より徒歩4分)

まちのこども園

よよぎうえほら



まちのこども園 代々木上原 認定こども園

エリア●住宅街の中にありながら、小学校や大学、商店街も近く、様々な関わりが日々生まれています。給食の食材についても、できる限り地域のお店から購入することを大切にしています。実際に子どもたちと街へ出かけてお店を見させていただくことも。

園舎●園のエントランスにはオープンアトリエがある他、乳児の保育室にも集中できる空間があり、制作をする場というだけでなく、子どもたちの日常的な探究活動の場となっています。デジタル顕微鏡やプロジェクターなどのツールも、子どもたちの興味を深めるツールとして活用しています。



園舎の中心にある中庭では、築山や水場、畑、砂場など、子どもたちが創意工夫して遊びを作り出せる環境を整えています。



📍 151-0064 東京都渋谷区上原2-24-15 (代々木上原駅より徒歩8分)

まちの保育園

ろっぽんぎ



まちの保育園 六本木 認可保育所

エリア●大使館も多く、文化的かつ、国際的で地域資源が非常に豊富です。ビオトープがあったり緑も豊かで、身近な自然に愛着を持って楽しんでいます。

園舎●本園と分園に分かれており、本園では乳児が、分園では幼児が生活をしています。本園は日常のよいゆったりしたテラスがあり、分園は地域が多文化なエリアであることから、あえて大きな大黒柱や梁、和室など日本の文化や精神性を基調にした空間に。分園の軒下にある小さなカフェ「まちの本とサンドイッチ」では地域にお住まいの方、近隣のオフィス勤めの方、卒園児も集っています。



📍 本園 106-0032 東京都港区六本木1-9-10
アークヒルズ仙石山森タワー1階 (神谷町駅より徒歩5分)
📍 分園 105-0001 港区虎ノ門5-5-1 アークヒルズ仙石山テラス103
(神谷町駅より徒歩5分)

まちのこども園

よよぎこうえん



まちのこども園 代々木公園 認定こども園

エリア●代々木公園の中にあり、公園内でも日常的に活動しており、四季折々の自然や虫、小動物との出会いがあります。お散歩では明治神宮や、近隣のお米屋さん、八百屋さん、お花屋さんとの交流や、竹下通りのアパレルショップの見学なども。

園舎●園が建つ場所がかつて「原宿村」だった農村集落を見渡す丘陵の上に位置します。近隣の調和、文化を引き継ぎ、みんなが集う大屋根にまもられた日本家屋をイメージして作られました。入口には大きな土間があり、ここにある囲炉裏を囲みながら、地域の方や保護者、子どもたちが集っています。



エントランスには、子どもをとりまく全ての人のためのまなびの場「CCLC(The Children and Community Learning Center)」があります。



📍 150-0052 東京都渋谷区代々木神園町2-1 (原宿駅より徒歩4分)

まちの保育園

きちじょうじ



まちの保育園 吉祥寺 認可保育所

エリア●武蔵野市は地域に根付き、活動をされている方が多いように感じています。市民団体の方に土作りを教えていただいたり、高齢者施設に定期的に出かけたり。中高生も定期的にボランティアに来てくれています。

園舎●内装には木を多用し、落ち着いた色使いに。園庭にはオリーブや、夏みかん、ジュンベリーなど実のなる木が、屋上には小さな畑と活動の空間を設けています。コミュニティスペースの中心には暖かな薪ストーブ。子どもたちが薪割りに参加したり、火入れを担当したりと日々の生活の場となっています。



📍 180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町3-27-13 (三鷹駅より徒歩7分)

まちの保育園

みなみあおやま



2024.4 開園

まちの保育園 南青山 認可保育所

このまちを、子どもの創造性と多様性をよここぶ、震源地のひとつに。

エリア●美術館やギャラリーなど多数の文化施設があり、歴史と最先端が共存しつつ、自然にも恵まれた穏やかなまちです。

園舎●POLA青山ビルの3階にあり、同敷地内には園庭も整備。テーマはテクノロジーの活用、身体性、インクルーシブ、まちづくりと学びの一体化。園そのものをアトリエとして、園・まち全体を子どもと大人が共に探究するフィールドとして捉え、創造的な学び・育ちの環境をつくっていきます。

📍 107-0062 東京都港区南青山2丁目4-1
POLA青山ビルディング3F (青山一丁目駅より徒歩4分)



NATURAL SMILE JAPAN



まちの保育園・こども園
@machihoiku



JIREA (Japan Institute for Reggio Emilia Alliance)
@100nokotoba



coしぶや (神南ネウボラ子育て支援センター)
@co_shibuya



まちの保育園・こども園



まちの研究所
(姉妹会社)



まちの研究所

運営会社 ● ナチュラルスマイルジャパン株式会社
本社 〒176-0004 東京都練馬区小竹町二丁目40番4
お問合せ ● machihoiku@machihoiku.jp